



かい せき ざん 貝 石 山

清少納言が随筆「枕草子」に有馬・玉造とともに称賛した名湯「ななくりの湯」。全国的にも有名な榊原温泉の一角に、悠久の大地の歴史を感じさせ

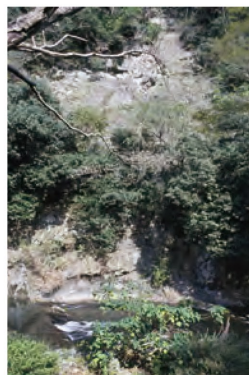


る「榊原の貝石山」がある。

温泉街の北側、榊原川が南に流れる断がい絶壁から、かつてここが海であったことを示す多種多様な貝の化石が見つかっている。これらの貝の産出から名付けられたのであろう標高162メートルの貝石山の岩肌は、今から2,000万年ほど前の新生代第三紀に、海にたい積した砂や泥が岩となった地層（一志層群）から形成されている。

江戸時代から、ここで多くの貝の化石が産出することは有名で、採集される化石の種類も20種以上に上る。アカガイ・カキ・ホタテガイなど食卓でもなじみの二枚貝のほか、ツノガイ・ナツメガイなどの巻き貝の化石が見つかり、現在の伊勢湾に生息する種類のみならず、広く太平洋岸に分布する貝の種類も多い。

また、貝のほかにはカニの殻や魚の歯の化石も見つかっている。榊原川の北を流れ、同じく雲出川に合流する長野川沿いでも、榊原の貝石山と同様、



榊原の貝石山

多数の化石を産出する場所がある。美里町三郷の「柳谷の貝石山」と呼ばれるその場所も、やはり貝化石の産出による名である。

これら「貝石山」は、松阪市嬉野宇気郷地域から津市安濃地域にかけて細長く分布する一志層群の露頭であり、地殻変動の中で現在の陸地が形成される途上の一時期の、榊原や美里近辺の自然環境を雄弁に物語る貴重な自然遺産として、ともに県の天然記念物に指定されている。

（「広報津」平成18年12月1日号）